東日本大震災　宮城県「ささやか安心空間」設置　ボランティアレポート

（この取り組みは 新しい公共モデル事業より 経費の一部を助成いただきました。）

４月設置　宮城県亘理町　逢隈小学校　避難所
ささやか安心空間 ⇒ 更衣室・クローゼット etc.

準備

４月初旬に「ささやか安心空間」を設置した亘理町では被災した人々から現場の要望や提案を聞き取ることができた。

- 避難者数に対して絶対数が少ないので不公平が生じ、寝室としての利用は考えられない。
- 最も必要なのは、体を濡れタオルで拭くときや塗り薬をつかう時に安心して裸になれる空間。
- 女性たちからは明るくて鏡のある更衣室の要望、そして下着干し場。

寝室サイズで設計していた空間を更衣室サイズに改めた。
部屋の奥行きの縮小にあわせ、ベース材とトップ材そして採光用の窓パーツを新たにつくる必要が生じた。合板で作っていたドア扉や天井パネルも採光素材でつくり直すことにした。
予算的に弊社で材料を買いそろえることが難しかったので、メールで本事業の趣旨を説明し図面を添付し、ネットで調べたメーカーに材料寄贈のお願いをした。

13 日 6 時 小野市出発～19 時半 松島町着

その結果、くもりガラスの役目をはたすプラスティック・ダンボールは住化プラスティック㈱様より、鏡は三重硝子工業㈱様より即答で快諾をいただき、さっそく変更部材の製作を北陽木工㈱様にお願いした。
ブロックは奥出雲町三成小学校から使用中のものを解体し拝借した。災害用に公的予算で備蓄してあったブロックである。出雲市平田中学校に備蓄されていたブロックは和紙で表装されているので、避難所にパステルカラーを供給し、やわらかな空間を演出できた。

受け入れ先

被災自治体にメールで更衣室の必要な避難所の連絡先を問い合わせたが反応が返ってこなかった。
「ささやか安心空間」への馴染みがなく、また更衣室は優先順位の低い施設と判断されているのかもしれない。
忙しい被災自治体に負担をかける訳にゆかず、被災地の避難所に直接、情報を届けることを決意した。

三成小学校　使いながら備蓄

6 月 14 日　飯野川第一小学校体育館
（避難者 140 名）

中学や高校の体育館は更衣室が整っていること、最近できた避難所指定の小学校体育館も施設が充実していることは亘理町の経験で判っていた。更衣室用テントなどがまだ入っていない小学校避難所に案内を出す作業を部材手配と同時並行でおこなった。
あまりに広い範囲の地域から設置要請が出てくると現地での作業効率が悪くなる。早期に避難所解消が予定されている学校も除外したい。仮設住宅の用地が少なく、避難所小学校の密度が高い石巻市周辺を支援対象とした。各避難所の電話番号はネット上に見つけられなかったので石巻市に問い合わせようとした。ところが石巻市役所の代表局番はまったくつながらず、各部署の直通電話番号も設けられていなかった。そこで各小学校の職員室に電話をし、避難所運営委員会の電話番号を教えていただく作業からスタートした。運営委員会代表者と話し、避難所解消計画の有無と更衣室等の需要を調査した。その中から設置希望のあった避難所に案内ＤＭ「避難所女性スタッフの皆様へ」を順次ファックスや郵便で送った。
その結果、飯野川第一小学校、釜小学校、中里小学校の避難所から設置要請が送られてきた。

中里小学校　W型

正式要請

現場体育館の入り口に横付けするため、トラックは小回りのきく２ｔアルミカーゴと決めていた。この荷室に積み込める更衣室は６部屋分で、３校の要請数がそれと偶然一致した。

手段を尽くした結果、宮城県の災対本部経由で石巻市担当者の携帯電話番号がわかり、連絡をとった。

支援先の行政担当からの設置要請書面を入手するためである。

現行の島根県行政ルールでは避難所に需要があることがわかっていても、行政の正式要請がなければ高速道路の無料通行書類は発行されない。兵庫県のような「押しかけ支援」とそのスタイルが違うからである。

4 月の設置では被災後一ヶ月以内の混乱期で石巻市担当者にコンタクトがとれず、料金の安い深夜走行で宮城県亘理町と兵庫県小野市 900Ｋｍを往復した。

到着した朝からの設置避難所の下見、ブロックの搬入で初日を終え、避難所近くで 3 名が車中泊した。

翌日の逢隈小学校などでの設置をこなし、3 名の交代運転で深夜の帰途をたどった。極めてハードだった。

それに比べ今回は 2 台の車を 4 名で運転したのだが、昼間の走行と宿泊施設にも恵まれ余裕をもって現場作業ができた。

設置作業

初日は飯野川第一小学校　島根を出発する前から取材してくださっていたフジテレビ取材クルーの到着を待ってブロック搬入が９時すぎから始まった。避難所の人や行政派遣されている人の手によって２時間でW型とＳ型それぞれ１セットずつが組立てられた。別便で送られてくる鏡は午後３時になるため、一旦

現場を離れ、市街地にある次の設置場所に向かった。翌日に使う資材を搬入し、車中泊にそなえトラックを空にしておく必要があったのだ。
釜小学校と中里小学校に搬入をすませ、飯野川にもどったのは３時すぎだった。
大きな鏡１０枚の梱包をはずし、北陽木工㈱様から寄贈いただいた木枠に鏡をセッティングし、更衣室の内外に取り付けた。
物干しワイヤーも内部にそなえたパステルカラーの空間は、避難所の女性たちから感謝の笑顔をいくつもいただけた。
二日目　８時ジャストから現場入りし中里小学校はW型、釜小学校はＳ型、それぞれ１セットの設置をおこなった。
飯野川でもそうであったが避難所の人々が自ら組立てマニュアルを見ながら設置し、完成すると拍手が上がることが印象的だった。
期せずして若いお母さんから「自分の部屋にしたい。ここで眠りたいね～。」別の女性からは「もっと早かったら・・。」と言う声もあがった。
三島はマスコミの取材対応や記録写真の撮影に追われ、設置工事にはほとんど携われなかった。他の３名がチームとなり、手際よく組み立てのサポート作業を進めてくれた。
設置を２時には済ませ、亘理町に向かった。
同町 吉田小学校 避難所解消で使われなくなったブロックを回収し石巻市蛇田保育所の子供たちに秘密基地体験を提供するためである。
回収の際、水濡れのしみが目立つブロックがいくつもあった。なぜ？　吉田小学校避難所の担当者に伺ったところ、つい先ごろまでシャワーブースをブロックで組立て、役立てていたことを知らされた。予想外の利用に感激した瞬間だった。被災者自らが工夫してＱＯＬ向上の材料としてつみっくを使って下さったのだ。
「そのときの写真はありますか？」
「だれかが携帯で撮ってたかも知んねえども、今はないわな」ということで幻のシャワーブースとなってしまった。
三日目　蛇田保育所は別紙に詳細写真。
数十年ぶりで給食をいただきました。保母さんたちの笑顔、子供たちの歓声、忘れません。

6月14日6:10 松島町→石巻市 33Km 1時間30分

松島町出口 渋滞

道の駅 上品（じょうぼん）の郷　入浴施設あり

お世話になったモーテルと塩水で枯れた植木

モーテルはボランティアメンバーのオアシス

現地に到着したのは石巻市のすぐ手前、松島町、８時前だった。道中、6 月の夕方７時なのにもう真っ暗で、日暮れの早い東北に来たことを実感した。
運よく事前予約できた観光ホテルに宿泊し、長距離運転の疲れをいやした。設置工事の初日は石巻市街から北にはずれた飯野川第一小学校で、松島町からは３３Ｋｍの距離にある。
前日の就寝前、ホテルのフロントに問い合わせるとシビアな答えが返ってきた。
「復興関連の車両で渋滞が常態化しています。７時に出発されると渋滞のピークで石巻には２時間以上かかります。６時に出発されればまだ混雑が少ないので８時半くらいに着けるでしょう。」
翌朝、助言にしたがい６時に出発したが、渋滞はすでに発生しており、高速道路入り口でも仙台方面から連なる車列に苦労しながら２０分待ちでやっと合流した。
松江を出発する時、仙台なら宿があると考えていたが仙台 ⇔ 石巻は６０Ｋｍ近くある。
往復だけで少なくとも６時間は奪われる勘定になる。なんとしても現場の近くに宿泊しなければスケジュール通りに設置できなくなってしまう。
飯野川第一小学校へは車中泊ができそうなところを探しながらの道中となった。

二日目宿泊

上品の郷は飯野川から3Km、入浴施設もあり絶好の車中泊ポイントのはずだった。
ところが一緒に寝た井上氏曰く「三島のいびきが荷室に響きわたるし、大型トラックが一晩中アイドリングをしているで、ちっとも眠れなかった。」申し訳ない。
ミニバンタイプの乗用車に寝た「つみっ庫くらぶ」の二人も一晩中出入りする車の音がうるさかったらしい。そんな3人とはちがって三島は気分よく朝をむかえ、みんなを起こした。

三日目宿泊

車中泊に懲りた中年４人組はネットで調べつつ石巻市内のホテルに電話しまくった。
どこも、ことごとく満室だった。夕暮れが迫る頃、「空くとおもいますよ。」というホテル側の声に小躍りした。翌日の蛇田保育所にもとても近い。「４名分、予約させてください！」「予約はちょっと・・。お越しください。」「えっ？！」そこはモーテルだった。
しかしこの選択が大正解だった。夕方ぎりぎりまで仕事をし、大型スーパーでビール、割引の惣菜と翌朝分のおにぎりを買い込んだ。事前の電話で８時以降が「お泊り料金」になることが分かっていたのでその時間をめがけて入室した。一回の入浴料金が５００円で、洗い場に行列をした「上品の郷」に比べ、独り占めの風呂は湯量もたっぷりで生き返った。
防音もしっかりしているので４人が大声で反省会をしてもＯＫだった。

四日目宿泊

蛇田保育所での秘密基地体験（別紙）を午前中で済まし、午後帰途に着いた。新潟県上越市で夜になった。三日目と同じようなパターンでモーテルを利用した。
一泊目の観光ホテルは４人素泊まりで 26,000 円を要したが、三泊目と四泊目は２日間で合計 23,000 円足らず。部屋も広く快適だった。
9月に予定している「更衣室分解・ブロック回収」時の宿泊は全泊モーテルと４人の意見が一致した。
ボランティア現場までの移動時間の短縮、宿泊費用の節約、部屋の防音性能、充実した入浴設備。
今後、被災地での宿泊を予定されているボランティア・グループには現場に近いモーテルをみつけ、そこに宿泊されることを強く推奨する。
寝袋さえ持ってゆけば3人目からも快適な夜を過ごせる。いびきの主は部屋の隅で寝袋にくるまること。

津波被害

運河の両岸、高さ３ｍ足らずの川土手が地区の被害規模を二分した。レポート２ページ目の地図で図示したとおり、一つの線で被害状況が一変していた。
亘理町の沿岸高速道路の土手の内外でも同じような光景を見ているので、被災された住民の運命の分かれ目を考えさせられた。

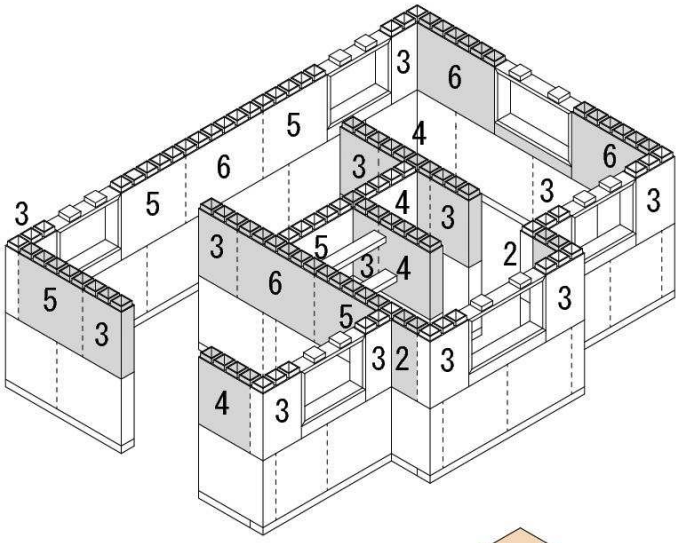
宿泊したモーテル、土手北側で被害が少なかった。

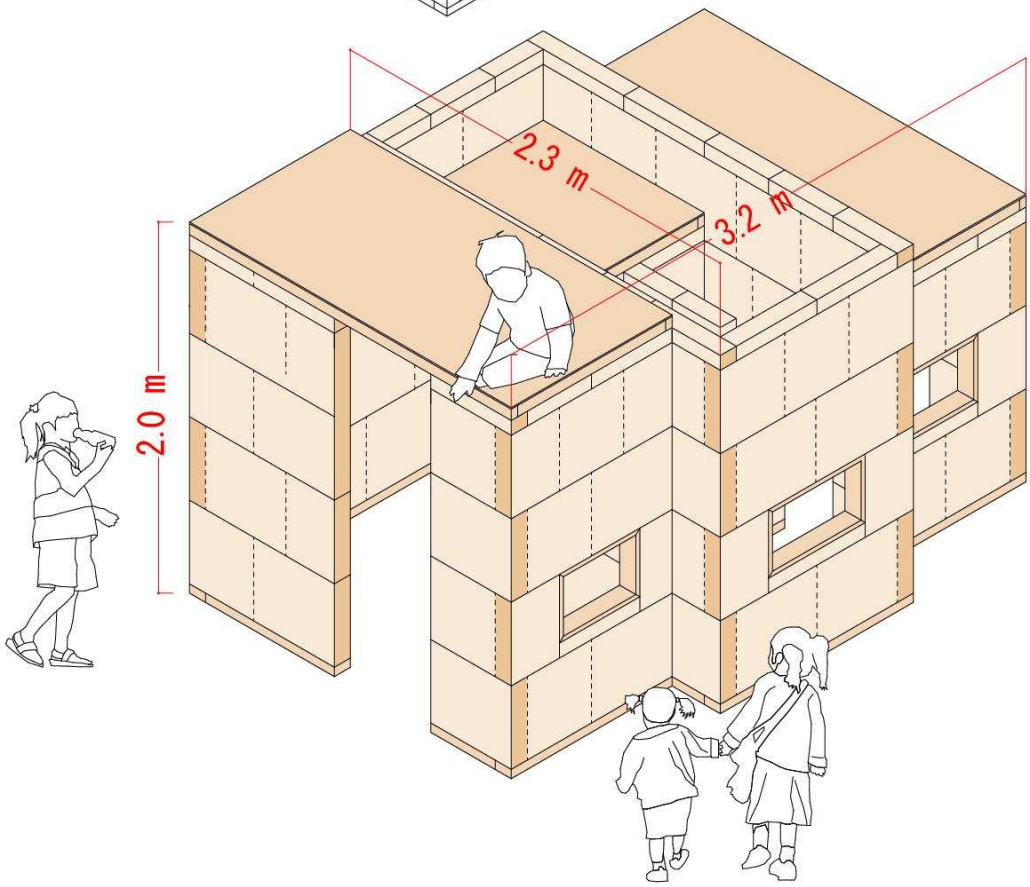
まとめ

材料の手配、設置受け入れ先への案内と選定、メンバー４人のスケジュール調整、双方行政との手続き作業、宿泊場所探し、どのブロックが欠けていても今回の設置ボランティアは成功しなかった。急な要請にもかかわらず備蓄ブロックを貸し出しいただいた奥出雲町さま、材料を寄贈していただいた企業の皆様、新しい公共モデル事業により支援してくださった出雲市総合ボランティアセンター運営委員会、高速道路無料通行券を発行いただいた消防防災課さま、数々の助言をいただいたＮＰＯ推進室さま、取材いただいたマスコミの皆さまに感謝申し上げます。
そして何よりも同志の３名は無理な要求ばかりをする危なげなリーダーをよく支えてくださいました。心からありがたいと思っています。避難所の女性たちがサプライズに見せてくれた感謝の笑顔と保育園のこどもたちの歓声も忘れられません。
今回の遠征ではレンタトラックによる運送と 3200Km の移動、宿泊で多くの経費がかかりました。近隣の自治体に備蓄ブロックがあり、行政ルールがもう少し柔軟であれば、早期から大量の更衣室が安上がりに設置され、より多くの女性たちから笑顔が頂けていたのではと考えます。
今後の精進があるのみです。　　皆さま、本当にありがとうございました。　　三 島 昌 彦

H23 年 6 月 16 日　石巻市 蛇田保育所　秘密基地体験

秘密基地　組立図　No.. 3





子供は狭いところが大好き　→　（**「学校に隠れ家」、朝日新聞**）で 検索

取材をいただいたマスコミ各社

ＮＨＫテレビ　松江放送局　→　ローカルニュース	ＮＨＫ仙台放送局　→　地元オンエア？
ＮＨＫラジオ　松江放送局　→　全国放送	東日本放送　→　地元オンエア？
フジテレビ　→　全国ニュース	中日新聞　→　囲み記事
河北新報　→　地元囲み記事	石巻日日新聞　→　社会面ベタ記事
山陰中央新報　→　出発日の記事	朝日新聞　→　全国版囲み記事 オンライン新聞に動画掲載中 （**被災地にスギの間伐材で仮設更衣室**）で 検索
山口放送（宮城テレビ放送応援）　→ 地元オンエア？　山口県ではニュースオンエア	